

支店長の わがまち紹介 第73回



いなしき夏まつり花火大会

稲敷市

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとの密接な繋がりを持たせていただいております。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。今回は茨城県稲敷市です。江戸崎支店長が稲敷市長 筧 信太郎氏にお話を伺いました。

稲敷市は「筑波経済月報」第26号(2015年9月)第26回本コーナーにて紹介させていただきました。改めまして、本市の魅力や特徴、展望についてお聞かせください。

■ 圏央道の県内区間全線開通で、魅力度が向上

2017年2月に圏央道の茨城県内区間が全線開通したことで、2つのICと1つのPAを持つ本市は、他県からのアクセスが格段に向上しました。

週末ともなると、道路は市内にある9つのゴルフ場に訪れる方々で混雑し、コンビニエンスストアは待ち合わせの場所として、他県ナンバーの車が多く立ち寄る場所となりました。



圏央道 稲敷東IC



稲敷市長 筧 信太郎 氏



江戸崎支店長 藤咲 清彦

また、圏央道の恩恵として、稲敷IC近くの江戸崎工業団地が早期に完売しました。ますます高まる圏央道のニーズに応えるため、現在、江戸崎工業団地から5分程度の場所に、新たに、稲敷工業団地の開発を進めています。今後も魅力ある雇用の場を創出するために、企業誘致を積極的に進める予定です。

圏央道は4車線化が決定しているため、更なる利便性の向上に期待を寄せるとともに、PAの活用や2つのIC周辺についても、本市らしい開発を行っていききたいと考えています。

■ 全国に誇れる美味しい農産物

本市は霞ヶ浦をはじめ、雄大な利根川や小野川などの水辺環境と温暖な気候に恵まれ、農業も盛んです。これまでも、県内一の産出額を誇る「米どころ」として存在感を示していましたが、近年では、さらに多くの方から「ふるさと納税」の返礼品である本市産のお米が本当に美味しいと、大きな注目を浴びています。



あずまミルククイン

本市のふるさと納税の返礼品の9割はお米で、北海道から九州まで、日本全国に本市のお米をお届けしています。食感が柔らかく「味」、「粘り」、「つや」と三拍子が揃った、冷めても硬くならない新しいタイプのお米

「あずまミルククイン」が人気です。

しかし、それ以外のお米も非常に人気が高く、お米の返礼品が品切れとなる時期もありました。リピーターも多く、嬉しい悲鳴を上げています。

今後は、寄附をいただいた方に対して、感謝の意味を込めて、ふるさと納税でこのようなことが実現できたと、お知らせしたいと考えています。

また、2015年12月、本市のブランド品とも言える「江戸崎かぼちゃ」が、北海道夕張市の「夕張メロン」や兵庫県の「神戸ビーフ」「但馬牛」などと共に、国が農林水産物や食品を地域ブランドとして保護する「地理的表示保護制度(GI)」の第1号として登録されました。「江戸崎かぼちゃ」は、畑で完熟するのを待って収穫するため、ホクホクとした食感で、甘さや栄養価も抜群です。今後、より多くの方にPRしていきたいと思えます。



「かぼちゃフェア」で江戸崎かぼちゃをPRする市長といなのすけ



浮島レンコン

また、茨城県青果物銘柄産地に指定されている「浮島レンコン」は、全て無漂白、ビタミンCやカリウム、食物繊維などが豊富なバランスのとれた栄養食品です。もちろん、お子様にも安心して食べていただけます。

さらに、ステーキのように輪切りにして焼き色をつけ、塩コショウを振れば、簡単で美味しい酒のおつまみとしてもお楽しみいただけます。ぜひ一度お召し上がりください。

■ 未来のために今できること

私は、政治信条である「未来のために今できることを誠実に、着実に、実行すること」に基づき、「子育て支援」、「教育環境の整備」、「健康と医療・高齢者福祉」、「農業と地場産業の活性と雇用機会の確保」、「安心・安全・環境問題への取り組み」、「市役所改革と公共サービスの充実」の6つの柱を立て、それを実現するために実施する40の項目を掲げました。

その中で、まずは、子どもの教育環境の整備を進めたいと考え、学校の再編を行っています。既に江戸崎・新利根・東地区では統廃合が完了し、現在は2021年4月の開校を目指し、桜川地区の3つの小学校を統合した新たな小学校の建設を予定しています。



桜川地区新設小学校イメージ図

今後は、学校再編と併せて、閉校となった小学校の利活用なども検討を進めていきたいと考えています。

人口減少の理由の1つとして、本市では、地元の小中学校を経て近隣の高校に進学し、市外の大学に入学した後、地元に戻ってこないというようなケースが多くあります。子ども達に地元へ想いを寄せてもらうためには、私たち大人が、もっと本市の子ども達に目を向け、一生懸命育てていかなくてはなりません。

また、本市には「安心・安全」で他には負けない美味しい農作物が実るため、子ども達にはそれらを食べてもらいたいと考えています。

その1つとして、本市の新利根・桜川・東地区の子ども達は、給食を食べる際、米飯を自宅から持参しています。稲作農家が減少している現在ではとてもめずらしく、また、負担に感じるお母さんもいらっしゃるかもしれません。しかし、地元の美味しい米を食べさせたい、子ども達が大学や仕事の関係で、本市を出ることがあっても、本市の美味しい米を思い出してほしいと願い、現在も続けています。

また、本市の特産品を活用した取り組みとして、昨年度、ふるさと納税を活用し資金を集め、江戸崎総合高校と共同で、市の特産品を活用したスイーツ開発プロジェクトに取り組みました。高校生のアイデアを活かした、「KUKURUBO」(ククルボ、かぼちゃのタルト)、「いなドレーヌ」(マドレーヌ)、「らぶり」(いちごのシフォンケーキ)の3つのスイーツが商品化され、現在、市内の店舗で販売され、好評を得ています。

同校は、学校目標の1つに地域連携を掲げていますので、今後も様々な取り組みにおいて連携していくとともに、市内唯一の高校であるため、生徒の地元への就職や就農、Uターンなどを積極的に支援してまいりたいと考えています。



市と高校生が共同で開発したスイーツ

■「住んで良かった」と感じる、笑顔あふれるまちへ

2005年3月に、江戸崎町・新利根町・桜川村・東町の3町1村が合併して稲敷市となり、既に14年が経過しました。この間、少子高齢化や他市町村への人口流出などで、本市の人口は1万人近く減少しています。このような中、本市は周辺自治体に負けないようにと、人口を増やす様々な取り組みを行ってきました。

しかし、今後ともわが国全体で、人口減少や少子高齢化が進む中、全てを量的に充実させる対策を打ち続けていくことは不可能です。また、どこの市町村でも定住促進に力を入れているため、補助金を出すだけでは、本当の定住にはつながりません。人を呼び込む前に、今現在、本市に住む市民の皆様が、世代や働き方は違っても、それぞれに「幸福・豊かさ・満足・安心安全」を実感し、「稲敷市に住んでいて良かった」と思えるようなまちづくりをしていく必要があります。市民が魅力を感じないようなまちに他から人は来ません。

まずは、結婚や子育て支援、そして、高齢者福祉などの社会保障をさらに充実させつつ、雇用機会の創造や地場産業を支援し、少子高齢化や人口減少に順応した社会環境を整え、市民の皆様が満足していただけるように、質の向上を求めるまちづくりを行っていききたいと考えています。

また、合併によりまちが大きくなったことで、地域ごとのイベントなどが減少して連携が少なくなり、この14年間に地域の人間関係が希薄になってきていると感じています。

今後は、市民や各種団体と手を取り合い、地域のことを共に考え、協働・共生し、子どもからお年寄りまで、皆が笑顔で暮らせるまちを目指していきたいと思えます。

■筑波銀行に期待すること

既に、定住支援として住宅ローンの金利割引などに取り組んでいただき、感謝しています。今後も地域に密着した銀行として、住民や地域の企業を支援していただきたいと思えます。また、本市も市民のために可能な限りの取り組みをしたいと考えているため、銀行の持つ情報を共有し、良いアイデアをご提案いただければ幸いです。

取材日：2019年6月21日

写真提供：稲敷市